

「人に優しいモノづくり」 その言葉を関わるすべての人に向けて

(株)岩瀬製作所 代表取締役社長 岩瀬友博さん インタビュー



回転式フライヤー（油揚げフライヤー）



がんもどきフライヤー

1958年(昭和33年)の創業以来、油揚げ機械・フライヤーのメーカーとして、豆腐・油揚げ業界から大きな信頼を寄せられる(株)岩瀬製作所。4年前、コロナ禍の渦中に34歳の若さで社長を引き継いだ岩瀬友博さん。コロナ禍も落ち着き、業界を牽引するフライヤーメーカーの1社として、若き社長の思いを聞いた。

幼い頃からモノづくりの現場で

生まれも育ちも愛知県蒲郡市。本社に隣接した自宅から、いつもフライヤーをはじめとした製造機械作りの現場を目にしながら育った。

「子供の頃から、機械や、物を作ることは好きでした。これどうしたらいいのかなと思ったら、創業者の祖父がちよっと手伝ってくれたり」長男とはいえ、会社を継ぐことはほとんど意識していなかったそうだが、ものづくり、機械いじりが好きということで、進学先にも金沢工業大学を選んだ。「一度、家から離れてみたいという思いもありましたから」と笑う。

大学を卒業し、地元愛知で包装機械業界のリーディング・カンパニーである(株)フジキカイに就職。設計業務を担当した。その後、本人曰く「いろいろあって」実家に戻ることに。27歳での入社だった。

国内のみならず海外にも拠点を持ち800名以上の従業員がいるフジキカイとフライヤー専門メーカーとしてコッコツと信頼を築いてきた岩瀬製作所では何もかも違う。

「ただ、町工場というものがどういうところかというのは子供の頃からわかっていましたし、入社しても違和感を感じるといふほどではなかったですね。ただやはり、同じ機械を作ると言っても、包装機械とフライヤーの違いとか、機械によつてこんなに違いがあるのかということは改めてよくわかりました」少人数で仕事を回さなければならぬ。設計部で設計にのみ携わっていればよかった前職とはまるで違う。

「担当もはっきり分かれているわけではありませんが、営業することほほばないですし、当たり前のことかもしれませんが、大きな企業とはやっぱ仕事の仕方は違います」それでも、そもそも機械いじりやものづくりが好きな性分が仕事に

フィットしたのだろう、会社に着け込むのは早かったし、自社の社員の職人技とも言える技術に驚きと憧れも持ったと話す。

「もちろん、今では部品設計など図面も書きますが、職人の人たちは図面がなくても機械を作り上げてしまいう技術を持っている。そういうところは素直にすごいなと今でも思っています」

「人に優しいモノづくり」とは

本人は「なんとか外見を作り上げているだけ」と謙遜するが、笑顔も口調も優しさが滲み出るような雰囲気の人当たりの良さは抜群だ。

岩瀬製作所が標榜する「人に優しいモノづくり」という言葉も、この人が言うとなんとなく納得してしまう。ただ、人によつて、その受け取り方は違うだろう。実際、社長として、そのあたりはどのように考えているのだろうか。

「やはり、まずは機械を使う人がこの機械を使つてよかったと思つてもらふことが重要です。ですから、例えば、機械にどれほど高度な機能があつても、使う人が使いづらければ、それは人に優しくないということでしょう。使う人にとって、でき



(文責／編集部)

本社
〒 443-0046
愛知県蒲郡市竹谷町西ノ浜 34
TEL 0533-68-2318(代表)
<https://www.iwa-sei.com>